

趣味の作品メイト紙上展 令和5年度

伊藤俊子 牧の原学区「永久の花園」押し花
 会場での作品を見た時、左上空から庭に舞い降りて来る4羽の小鳥の可愛らしさが大変印象的でした。Kさんにも見て貰いましたが、「同感ですと言うので伊藤さんに、作品についてお聞きしました。

「押し花の趣味は、10年以上続けたけど、もう10年以上前にやめました、小鳥の花材？覚えていません」。

翌日、連絡があり、「小鳥の体はラグラス、目は茄子の皮、嘴はトウモロコシです」と。

大きな黒い眼の小鳥さんたち、薄い黄色の羽毛体で、青紫のアジサイや朱色のガーベラなどが咲き乱れる花園で、久遠の命を喜び、囀り続けるのでしょうか。(間接インタビューで)



広報部 石川紘一

横地公子 香流学区「籠のPATCHワーク」タペストリー
 手芸がもともと好きだった私は50代からパッチワークキルトを始めました。作品作りの際は、布地を見ているだけでワクワクし、小さな布を組み合わせ、アップリケをして一つの作品を完成させる度に達成感と喜びを感じます。雑誌を見て作家さんの作品を作ってみたり、自分で好きな色やデザインを組み合わせた工芸品、楽しく作ります。コロナ禍で家にいることが多く、たくさん作り、この作品もその一つです。



中心に、豪華な花籠を置き周りには素朴な手籠を配しました。コロナ明けの作品展で、皆さんに作品を見ていただけ、嬉しかったです。ハンドメイドは私の暮らしのリズムのひとつ、大切な癒しの時間です。これからも自由に楽しく励みたいと思います。

駒場治子 猪高学区「布草履」手芸
 何もしないでいるのは、時間がもったいない。着ない古着を捨てるなんてもったいない。思い出懐かしいブラウス・ワンピース・着物を再び身につける嬉しさ、足のぬくもり、足指で地面を掴みながら歩けば、足裏を刺激して血流を良くし、健康にも良いのではと思い、布草履を作りました。



布を裁って紐に編み付けていくのですが、草履の幅が足の幅の半分くらいになったり、大きすぎたり、丈長になったり個性が出てひとりでの笑いがこみ上げる。

布の思い出を懐かしみながら、手指を動かすのは認知症予防にもなると思いますし、再利用した布が草履に仕上がったときは、嬉しさと達成感で胸が躍ります。

布草履は洗えば繰り返し履くことができます。素足に履いたり五本指ソックスに合わせて履いて、元氣よく歩こう。

名東区歴史探訪 (13)

高社クラブ
宮地賢二

信長上洛そして清州会議の章

東に武田、北に朝倉、阿波に三好、南近江に六角、などの包围の中、信長は、お市の方を浅井長政に嫁がせ北の守りを固めた後、1568年、足利義昭を第15代将軍(在位1568-1573)に据え、上洛した。

柴田勝家は、1568年、信長の命を受け近江攻略、三好長政勢を駆逐、1570年には、近江蒲生郡佐々木承禎父子の攻勢も撃退している。この折、籠城に備えた水瓶を割り、城兵の士気を鼓舞して大勝したが、世に言う「壺割り柴田」の逸話はよく知られている。

北陸攻めの大將柴田勝家は、越後の雄、上杉謙信に苦戦を強いられていた折、信長は、羽柴秀吉に北陸征伐を命じたが、秀吉は、軍師竹中半兵衛の献策、「戦場へ行くだけ行って、意見が合わぬと言って引き上げる、柴田に花を持たせるのは下策である」を容れ、中国攻めに向かい、備中高松城を水攻めにし、陥落間際を見て取って、敢えて信長の加勢を頼んだ。1582年のことである。

毛利の軍師安国寺恵瓊と密かに和睦の話をしてきた秀吉は、明智光秀の謀反による信長の死(6月13日)を知るや直ちに、「高松城主清水宗治の切腹で、籠城者全てを助命する」の和睦策をまとめ、世に言う「中国大返し」を行い、光秀討伐の行動に移った。6月24日、山崎の合戦で、光秀を討った秀吉は、翌25日、清州城にて、織田家筆頭家老柴田勝家(信長の三男信孝を擁す)と、三法師(信長の長男信忠の子)を擁して、跡目相続の話し合い(清州会議)を行った。双方譲らず抜き差しならない事態になり、翌1583年さらに事態は進み、信長の次男信雄(秀吉側)と信孝の遺領配分をめぐる争いで滝川一益が信孝・柴田勝家側について、秀吉との抗争が始まった。

次回は、勝家滅ぶの章

第39回市老連女性リーダー研修会

11月29日 北区役所大会議室

名東区から7名の女性リーダーが参加しました。テーマは「人生100年時代における老人クラブの役割」で、クラブ活動を楽しむ8つのヒントの話がありました。

1. 歩いて会いに行ける仲間がいる幸せ
2. フレイル予防は危機感から
3. ほめ合い、笑い合う刺激で脳の活性化
4. 顔を合わせ、しゃべろう!
5. ふらっと参加、ちょいちょい参加、どっぶり参加と何でもあり、
6. 新たな世界にも一歩ふみだしてみよう
7. ボランティア活動で地域貢献
8. だからこそ続けよう「なごやかクラブ」

講義の後6人一組で、組毎で課題を出して話し合いました。時間切れで、結果を発表する時間もなくなり終了したので、「尻切れとんぼ感」があり、ちょっと残念でした。

報告者 藤井幸栄

お康 参が らし宮れ行に12 詣 う
 祈で「道数字いたへもつ勢月結に毎ご明
 りあ皆をき治に。行時て田31婚行年おざ
 しりま進詰橋なかく代り神日したま伊ま集
 参すがむめをるれよと共し宮午てす勢す。お後
 りよう先はれしれににたおの頃さんおめ
 りまう正た玉よ20な伊にた参12頃さんお
 里まにも宮長砂う年り勢がり時へ
 美したにも宮長砂う年り勢がり時へ
 た」と健でい利か。くま神そに前 初



令和6年1月19日 182号

発行者 名東区なごやかクラブ連合会
 名東区上社二丁目50番地
 電話 052-778-3099
<http://kurouren.chu.jp/>

あけましておめでとうございます

会員の皆様には健やかな新年をお迎えのことと思います。さて、昨年はコロナ規制もなく総会で承認された区な連計画行事は、内容を充実させ、且つ好天にも恵まれ、会員の皆様にも多数参加していただき、総ての行事を盛大に開催することが出来ました。

令和5年度最終行事は1月26日(金)に開催される「癒しのコンサート」。会場満席で掉尾(ちょうび)を飾りましょう。

令和6年度は名東区役所・区な連も年明け2月には50周年を迎える年度です。今期末2~3月にかけて新会員を増やす活動を行い充実した態勢で新年度を迎えましょう。

皆様にとって幸多い年でありますよう祈念いたします。

会長 長尾滋男

元日夕刻に能登地方でM7.6、最大震度7の地震が起き、甚大な人的並びにインフラ被害が発生し、厳しい年明けとなりました。短期での復興を祈るとともに、会員の皆さまにも日ごろの減災対策を、念のため、今一度点検されては如何でしょうか。 広報部



田端サナエ 猪子石学区

名東福祉大学校教養講座

第5日目 12月12日

第1時限 歌「歌を楽しもう」

SACHIA ソプラノ歌手



ソプラノ歌手だからてっきりカルメンとかトスカのアリアかと思いきや我々の若かりし頃に歌ったペチカ、冬の星座などを独唱。第2部はみんなで歌おうということで東京ブギウギ、真っ赤な太陽、昴などを会場中で大合唱し、久々に解放された気分が気持ちよかったです!

鷹羽朝子

第2時限

講演「美の成り立ち:法隆寺からゆるキャラまで」

中島 滋 美術家



「富士山」のなだらかな傾斜は法隆寺の「五重の塔」の屋根の傾斜と同じ勾配で『黄金比』になっており、美しさを感じます。あのビーナス像も頭から臍までと臍から足までの長さの比が、

1:1.6で、「八頭身」美人となっています。日本人の多くは「七頭身」ですが、大谷翔平選手は「八.二頭身」で、ゆるキャラは「三.四頭身」くらいが多いとのお話でした。

伊神名帆子

注:黄金比とは、比べる長さの比率が 1:1.618 の幾何学的な値のことを言います。

第49回趣味の作品展 区役所講堂

12月19日~21日

出展者213名、447点の見応えのある作品が講堂一杯に展示されました。展示技術が良かったのか、スペースが十分取れたのか「今年は明るく見やすい、綺麗な展示場」との評を頂きました。

新型コロナウイルスも5類となり人との交流も回復し、天候にも恵まれ、1日目220名、2日目180名、3日目200名、合計600名の多数の方に観覧して頂きました。

女性代表者会による喫茶コーナーも好評で、珈琲を飲みながらお仲間と談笑される方が多数おられ、これも作品展の成果でした。

「今年の出来映えはどうだ!」と言っているベテランの作品、仲間から「えっ!凄いな!」と褒められた初出品の作品、共同作成で「ワイワイ、がやがや!」お喋りが聞こえそうな作品など、どれも楽しく観覧させて頂きました。

合間を見つけ来場された区役所の方からも「素晴らしい!凄いな!」と驚きとお褒めの言葉を頂きました。

作品展は、出品される方をはじめ、搬入搬出に関わる方、会場の設営から撤去の作業をされる方、開催期間中の運営に携わる方、そして勿論、観覧に来て頂く方など多くの方のお力添えで成り立っています。

無事開催できましたことに対し、文化部として、改めて関係の皆様へ厚く御礼を申し上げます。

文化部長 加藤 誓(ちかひ)

世界寺子屋運動

書き損じはがき・未使用の切手で、世界の子供たちが、文字を知る喜びで笑顔になります。事務局に、2月9日(金)までにお持ち下さい。書き損じはがき 17枚で、カンボジアでは、子供一人が1か月学べます。古くても構いません、ご寄付をお待ちしています。

「世界寺子屋運動」名古屋実行委員会



1~3月会員募集月間 なごやかクラブ会員募集中



永田興三 名東学区 「どんぐりころころ」 工芸



散歩がてらに公園やスーパーに行くことが日課になっています。秋になると公園にはどんぐりがたくさん落ちているのを見かけます。公園にはよく園児達が連れられて来ていて、この子供たちを見ると、子供のころ、どんぐりにツマヨウジを刺して独楽にしたことを思い出します。

15年ほど前のこと、たまたま大きなどんぐりを見つけて集め、それで高さ40cm位の円錐状の置物を作りました。玄関に置いておいたらお客さんが珍しがったので、他の作品もいろいろ作りました。

それ以来作っていなかったが、たくさん落ちているどんぐりを見たら、今回、改めて作る気になりました。小さなどんぐりが欲しいと思っていたら近くの公園にあることが分かり大いに利用しました。左奥に現代的な塔を建て、右手前に池を掘って、公園の雰囲気を作ろうと思いました。どんぐりを選びながら、削ったり糊付けしたりの連続でした。

最近の子供は「どんぐりころころ」の歌を覚えてもらって唄っているのかな！

柴田増実 藤が丘学区 「ゆらぎ 15」 木版画

「ゆらぎ 15」について

私となごやかクラブの縁は趣味の作品展で始まりました。9年前、まだなごやかクラブの会員ではない私に出品のお誘いがあり、会員になる予定にして、作品「交差する」シリーズで初めて作品展に参加しました。それ以来毎回出品しています。

コロナ流行直前に読んでいた本で宇宙の初めに密度の小さなゆらぎがガスの濃淡を生み、渦巻きとなり、星が誕生したことを知り、作品作りにもゆらぎが大事と思い作品の主題としました。

私の作品「ゆらぎ」は宇宙とか微生物の世界を扱ったテレビの映像や本の写真などの影響を無意識のうちに受けているように思っています。

現在、下絵を描く→写す→彫る→刷ると各工程を楽しみつつ、「ゆらぎ」の17作目を制作中です。これからも日常の刺激を受けながら揺れ動く私の小宇宙を創り続けていきたいと考えています。



松原延子 北一社学区 「サンマ2尾」 手芸

この作品は、一見水彩画のように見えるのですが、作品の題目に「手芸」とありますように、昔の帯をリユースされたものとのことです。

言われてみるとサンマの腹部のふっくら感や、微妙に光沢のある個所は確かに絵筆では表現がむつかしく布ならではのことと思いました。出品者の松原さんは同じクラブの方に作り方を教授してもらい、これがその第一作目ということで松原さんの腕前になお驚かされました。

(作者に電話インタビューして) 広報部 鷹羽朝子



趣味の作品 メイト紙上展 令和5年度

文化部長の応援を得て、
広報部員が「この作者の一言を
聞いてみたい」と選んだ作品
です



溝口多鶴子 前山学区 「河童」 陶芸

陶芸は、今の先生が「陶芸教室を開くのでおいで下さい」と言われたので、軽い気持ちで教室に入り、出来るかなと思いつつ始めました、60歳代の頃でした。

最初は、粘土の菊練りの練習で、これが私は苦手で、いつも先生が手伝って下さいました。型を作るのは、すべて手だけ、ろくろは使いません。型は素焼きをし、それに自分の好みの釉薬を付け、焼いてもらいます。

焼きあがってくるまで出来栄をいろいろ想像して待ちます。

先生のご自宅で教室のお友達の作品を見たり、お喋りするなど、思い出がいっぱいあり、陶芸が一番好きな趣味になりました。

作品展にどれを出すか迷いましたが、一番たくさん作ったのが「河童」で、素朴で面白いと思い、これに決めました。



松原良雄 極楽学区 「無題」 写真

舳先(船首)の撮影場所は、南知多町豊浜漁港です。構内を見て回り被写体は漁船に決めたが、連なって係留されていたため、一艘だけを撮るわけにもいかず、良い構図はないかと岸壁の先まで行き、下を覗くと船体が太陽の光で海に映り込んでいた。反対側も隣の船との間から光が入り込んでおり、運が良かったのかすぐ前に浮標(ブイ)もあった。

海面の色と船の白い色とのコントラストがうまく調和され、自分のイメージとも合っていた。

後は、どのような構図で切り取ろうか。できればノートレミングで切り取りたい。普段からノートレミングを心がけていたので、舳先(船首)部分だけを切り取ることにした。

- ・ニコン F100
- ・レンズ 80mm~120mmズーム
- ・シャッター125
- ・絞りF11

飯沼忠道 上社学区 「黎明の刻」 写真

山の撮影は天候に左右されることが多いので事前によく調査してから行きます。

今回は乗鞍国民休暇村より4kmほど先の道路に車を止め、車の中で4時半頃から夜明け「黎明の刻」を待ちました。

黎明の刻になると、太陽の光は紫色からオレンジ色に刻々と微妙に変わって来ます。



この頃から、三脚を構えシャッターのリリースを押し続けます。

白樺やカラマツの原生林が壊された一帯は、太陽の光が当たると木々の色合いが美しいです。

白樺の木肌の白と葉の緑のコントラストが素晴らしいです。

渡邊 守 本郷学区 「和服リフォームと共に」 手芸

私の「縫製作業」には歴史があります。私の親は「洋服店」を営んでいたのので子供の頃には、仕事場にミシンほか「背広服」を作る道具は全部あり、それを見ること、触れる機会がありました。「門前の小僧習わぬ経を読む」のことわざの通り、60歳になって、妻が使用していたミシンを物置から持ち出して「布を縫製」することを始めるのに、何の抵抗も感じませんでした。

型紙作業・裁断作業・縫製作業・装飾作業、等々ありますが、作業が進むにつれ楽しさを感じ、又面白さも増えてきます。妻も私の「洋服」を喜んで着てくれました。

そんな事で、自分の着る物は全部自分で作り、「自分で自分を着る」事が楽しくなりました。また、他人を見る目が服装を通して見るように変わり、街に出て人々の様相も見るのが楽しく感ぜられるので、人生が幸せに思われます。

「郷クラブ」の前会長「山本昭様」から出品のお誘いを頂き、今回も参加出来たことを喜んでます。ありがとうございます。



浅田真弓 引山学区 「編み物」 手芸

初めて出品させて頂いた作品が優秀作品に選ばれるなんて思いもせずにビックリしました。子供に手がかからなくなり、自由な時間が増えたので自己流に編んでいたのを、編み物教室に通い基礎から習い直しました。この20年程の間に自分のものはもちろん、夫・子供・孫のものを随分編みました。一枚編むのに3か月くらいかかるんですが、夫は大柄なので数か月かかるので数枚しか編んでいません。

何枚編んでも未だに納得できるものは出来ません。コロナ禍で編み物教室に通えなくなり、暫く編むことから離れていたが、根気と集中力が無くなり、編まなくなっていました。今回の出品をきっかけに、ゆっくりとでも編んでいこうかと思っています。

